

**令和5年度指定
WWLコンソーシアム構築支援事業
(地域アドバンスト・ラーニング・
ネットワーク構築のための委託事業)
事業報告書
第3年次**

令和8年3月

国立大学法人大阪教育大学

目 次

I.	事業概要	
	事業計画書	1
II.	事業報告	
	(1) ホームページ	6
	(2) ミニフォーラム・課題研究発表会	6
	(3) 教員向けフォーラム	16
	(4) 成果報告会（国際会議）等	17
	(5) 広報及び人材育成校の拡充	18
III.	会議報告	
	地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク関西ブロック推進委員会	19

I. 事業概要

様式第1（事業計画書）

事業計画書

令和7年2月3日

文部科学省初等中等教育局長 殿

(実施機関名) 住 所 大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1
名称及び 国立大学法人大阪教育大学
代表者名 学長・岡本 幾子

令和7年度「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク構築のための委託事業）」に関する事業計画書を以下のとおり提出いたします。

記

1. 事業実施機関名

機関名：国立大学法人大阪教育大学

2. 事業実施期間

契約締結日～令和8年3月31日

3. 構想概要

構想名

地域ALネットワーク関西ブロックの構築

概要

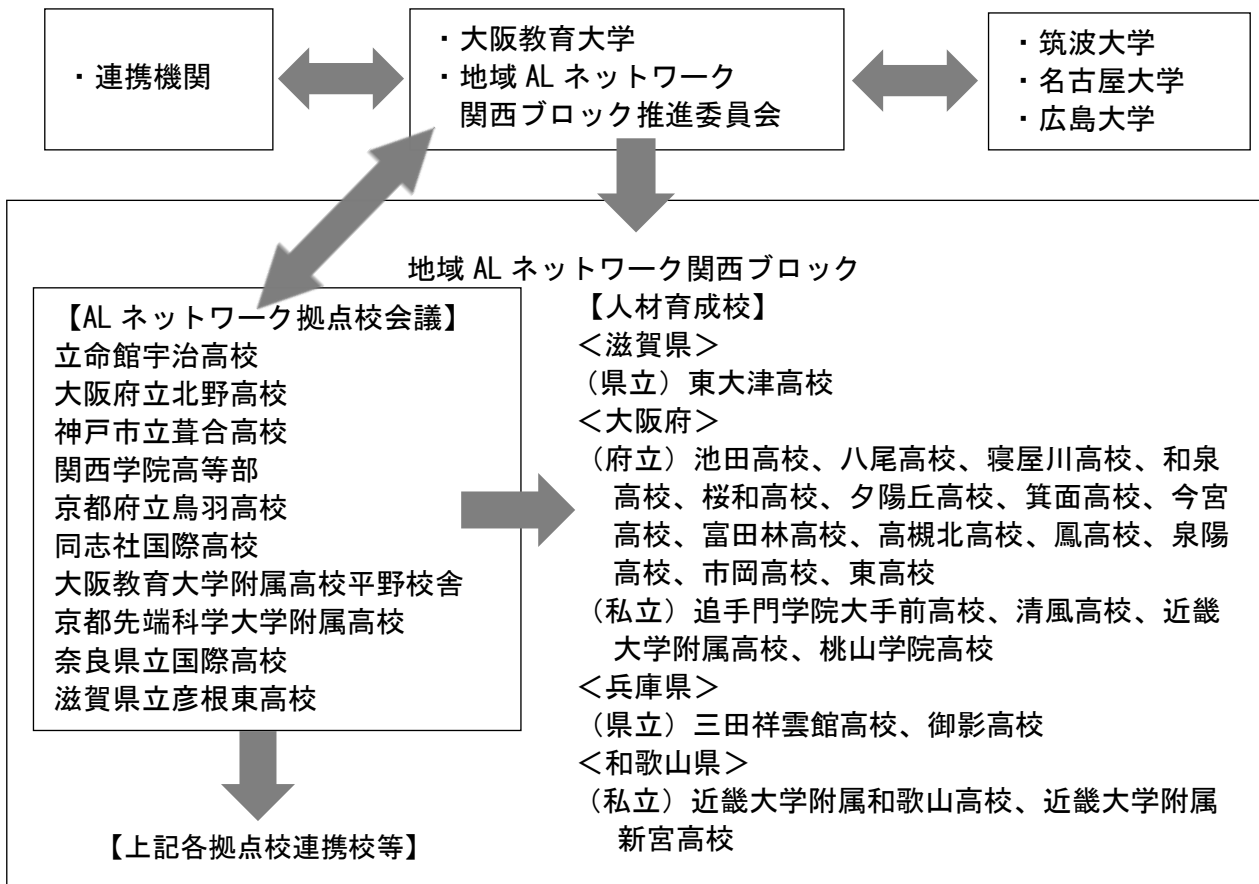
将来、新たな社会を牽引し、世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したイノベーティブなグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働する仕組みであるアドバンスト・ラーニング・ネットワーク（ALネットワーク）が全国に構築されている。それらのうち、関西地域に配置された拠点校を中心とするALネットワーク間の連携を進め、各ALネットワークの成果やコンテンツを共有し、イノベーティブなグローバル人材育成を行っている高等学校（以下、人材育成校）にも取組を拡大させ、WWL事業全体の効果的な実施に資することを本事業の目的とする。

4. 地域ALネットワークの種類

- ①西日本地域ALネットワーク
- ②東海北信越・北海道地域ALネットワーク
- ③関西地域ALネットワーク
- ④関東・東北地域ALネットワーク

5. 事業実施体制 (体制図の添付必須)

事業項目	実施場所	事業担当責任者
① 推進委員会	大阪教育大学・オンライン	藤井 睦子
② 拠点校会議・自己点検	オンライン	藤井 睦子
③ ホームページ運営	大阪教育大学	榎木 泰介
④ ミニフォーラム	大阪教育大学 他	大内田 裕
⑤ 教員向けフォーラム	大阪教育大学 他	寺嶋 浩介
⑥ 人材育成に係る評価指標の活用	協力校	仲矢 史雄
⑦ 地域ALネットワーク間の情報共有	大阪教育大学	藤井 睦子
⑧ 成果発表会の連携	各ALネットワーク会場	鈴木 真由子
⑨ 広報及び人材育成校の拡充	大阪教育大学	瓜生 彩子
⑩ 地域ALネットワークへの勧誘	関西地域新規ALネットワーク拠点校	瓜生 彩子



6. 今年度の計画

(1) 事業項目別実施期間

実施期間：契約締結日～令和8年3月31日												
事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 推進委員会		●								●		
② 拠点校会議・自己点検		●								●		
③ ホームページ	→											
④ ミニフォーラム			●	●	●		●		●	●	●	
⑤ 教員向けフォーラム		●			●			●			●	
⑥ 評価指標の活用	→											
⑦ 地域ALネットワーク間の情報共有			●			●						
⑧ 成果発表会									●	●	●	
⑨ 人材育成校の拡充			●					●				
⑩ ALネットワークへの勧誘		●	●									

(2) 今年度の具体的な事業計画

I. ALネットワーク間の連携

① 推進委員会の開催

事業の推進にあたっては、本学の教員で構成される推進委員会を開催し、関西ブロックの統括・連携及び、ミニフォーラムをはじめとする事業計画を策定する。ミニフォーラム及び教員向けフォーラムに多くの生徒・関係者が参加できる仕組みやテーマ等について検討を行う。

② 拠点校会議・自己点検の実施

関西地域のALネットワークカリキュラム開発拠点校、拠点校または管理機関から構成される拠点校会議を開催する。関西ブロック関係校に提供できる取組について情報を共有し、関西ブロック内で相互にコンテンツを活用する。共有した情報を基に関西ブロックの自己点検を併せて実施する。

③ 地域ALネットワークホームページの運営

令和5年度に作成した関西ブロックの情報共有及び、開発されたカリキュラム・成果物を相互利用するためのホームページを運営する。随時、ミニフォーラム等の情報を発信し、関西ブロックに属する高校生及び教員へ成果発表会等のイベント情報や教員向けの研修会等の情報を提供する。各ALネットワークのWWL事業で行うイベントやその実施時期について情報共有を行っている。この有益な情報を令和7年度の広報に役立て、早めの情報発信に努め、多くの高校生が成果発表会やミニフォーラムに参加できるよう情報発信を行う。各ALネットワークの情報を集約した行事もホームページに掲載する計画である。

II. 人材育成校との連携

人材育成校は作成したホームページから（カリキュラム開発）拠点校の成果物や発表会の情報や教員研修会等の情報を得ることができるようにした。得られた情報を基に教員は、自校での探究活動等の発

展に繋げることができ、生徒は自校以外の取組を知り、多くの学びの機会に参加できるよう、以下の④～⑥を通して、イノベティブなグローバル人材の育成に取り組む。

④ ミニフォーラムの開催

本学及び、各ALネットワークから高校生向けコンテンツを準備し、ミニフォーラムとして関西ブロックを通じて提供する。探究活動のテーマ着想のヒントとなる題材、またキャリア構築に向けた題材を主に提供する。コンテンツは各ALネットワークからの提供を含めて募集する。イノベティブなグローバル人材の育成に資するワークショップの実施や自身のキャリア形成に繋げるために研究者等を講師として講演会等を実施する。

⑤ 教員向けフォーラムの開催

イノベティブなグローバル人材育成に資する活動に向けた教員向けフォーラムを開催する。教員向けフォーラムでは、探究等の授業を実施するにあたり必要となる資質能力を取得するために先進校のノウハウの提供や大学教員による研修会を実施する。また、教員が隙間時間に学べるようなオンデマンドで視聴できるように、本学拠点校や共同実施校でカリキュラム開発した事例や探究活動の評価に関するコンテンツの提供を計画している。

⑥ 人材育成に係る評価指標の活用

本学で開発した探究活動の評価指標を提供し、各校のイノベティブなグローバル人材育成にかかる活動成果の評価を支援する。人材育成校等に案内するとともに評価指標についての説明を行い、本学の研究への協力を要請する。

III. 他ALネットワークとの連携

⑦ 全国の地域ALネットワーク間の情報共有

名古屋大学、広島大学と情報共有を行い取組の充実を図るとともに、全国的なWWLコンソーシアム構築に向けて、コンテンツを共有するなどの連携を図る。令和6年度は本学のコンテンツを西日本地域ALネットワークに提供し、西日本地域ALネットワークのコンテンツを関西ブロック関係校への周知を行ったので、次年度も引き続き連携していく計画である。

⑧ 成果発表会等の連携

関西ブロックの各ALネットワークで行われている探究活動の成果発表会や高校生国際会議等に相互参加を促すことで連携の強化を図る。他ALネットワークの成果発表会等に参加できるように各ALネットワークに協力を要請している。相互参加できるようにすることで、新たな学びを得られるとともに、高校生・学校間の交流の促進に繋げる。また、人材育成校の生徒が参加できるように併せて要請した。

IV. 広報・普及活動

⑨ 広報及び人材育成校の拡充

関西ブロックの活動を広報し、従来のWWL事業と関わりがなかった高校にもイノベティブなグローバル人材育成の必要性和可能性を普及させるにあたり、作成したホームページを案内し、興味・関心を持った高校に資料を送付すると共に事業説明を行う。本事業で作成したホームページだけでなく、本学ホームページ等も活用し、本事業の取組内容を広く周知し本事業活動の普及に努める。

⑩ 新規に採択されたALネットワークの地域ALネットワークへの勧誘

今後関西地域に新たにALネットワークができた際には、拠点校に対し、関西ブロックの情報を提供し、参加を促す。

【担当者】

担当課・室	附属学校課	担当者 職・氏名	教育研究係長・河島 司
電話番号 (直通)	072-978-4016	メール アドレス	fuzoku@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

Ⅱ. 事業報告

(1) ホームページ

広島大学が西日本のALネットワークを、名古屋大学が中部地方及び北海道のALネットワークを束ねている。本学は令和5年度より関西地域に所在するALネットワークを取りまとめ、文部科学省が進めるWWLコンソーシアム構築に向けて、事業に取り組んだ。本事業ではWWL専用ホームページ（以下、webサイト）を作成することが求められており、関西地域に所在するALネットワークの成果を共有するためのwebサイトを令和5年度作成した。webサイトには主に以下の内容を掲載している。

- ① 関西地域に所在する拠点校及びイノベティブなグローバル人材を育成する高校（以下、人材育成校）の情報
- ② 本事業概要
- ③ 生徒向けフォーラムのお知らせ（告知）と報告
- ④ 教員向けフォーラムのお知らせ（告知）と報告
- ⑤ イベントカレンダーの掲載

①では関西地域に所在する拠点校のWWLコンソーシアム構築支援事業で得られた成果が掲載されているwebページと人材育成校のwebページへのリンク先を掲載し、本事業に関連する高校の情報を一元化している。②は地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク構築のための委託事業の趣旨・目的、本学がどのように取り組むのか、概要説明を掲載している。③は高校生を対象に、高度かつ多様な科目内容を生徒自身の興味・関心に合わせて学べるように様々な内容のミニフォーラムを本事業で開催するにあたり、ミニフォーラムの開催案内や、開催した内容を随時掲載している。④はイノベティブなグローバル人材を育成するにあたり、教員の学校で行う探究活動の指導能力向上等を目的に、教員対象の研修会等の情報を掲載している。③と④に関しては、本学の取組だけでなく、関西地域に所在する拠点校と管理機関の協力により、生徒や教員を対象とするイベントや研修情報を昨年度より掲載を開始した。⑤はwebサイトを閲覧するにあたり、事前にスケジュール等が確認できるように機能を昨年度追加した。今年度は③と④の内容を⑤のイベントカレンダーとの連携を行った。

(2) ミニフォーラム・課題研究発表会

1. ミニフォーラム

今年度はミニフォーラムを計7回実施した。それぞれの内容を以下に報告する。

<第1回>

プログラム名：「教育を考える」課題研究ワークショップ

開催日時：令和7年8月23日（土）10：00～12：00

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパス西館・みらい教育共創館

講師：大阪教育大学 加賀田 哲也教授、池上 英明特任教授、林 洋輔准教授、尾崎 拓郎准教授、仲矢 史雄教授、鈴木 真由子教授

内容：以下の6つのワークショップから選び、教育課題について考え理解を深める。

- ① 日本の英語教育について考えよう！
- ② 子どもの人権について考える
- ③ 夏季オリンピックを知る、聞く、論ずる
- ④ プログラミング教材を使った教材研究について考えてみよう
- ⑤ 体験で学ぶ STEAM 教育
- ⑥ キャッシュレス時代の消費者教育～合理的な金銭について考えよう～

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、天王寺校舎、滋賀県立虎姫高等学校、大阪府立生野高等学校、池田高等学校、和泉高等学校、市岡高等学校、桜和高等学校、鳳高等学校、春日丘高等学校、門真なみはや高等学校、岸和田高等学校、北千里高等学校、桜塚高等学校、佐野高等学校、清水谷高等学校、吹田東高等学校、大阪府教育センター附属高等学校、泉北高等学校、泉陽高等学校、槻の木高等学校、天王寺高等学校、登美丘高等学校、富田林高等学校、寝屋川高等学校、花園高等学校、東住吉高等学校、布施高等学校、夕陽丘高等学校

上記の6つのワークショップから自身の興味・関心に合わせて1つ選び、「考える、まとめる⇒深める⇒楽しむ！」をテーマに現代の教育課題について、グループワークを通じて考えることを目的に「教育を考える」課題研究ワークショップを昨年度に続き実施した。

生徒は事前に自身の興味・関心がある講座を選び、他校の生徒とともに課題研究に取り組んだ。

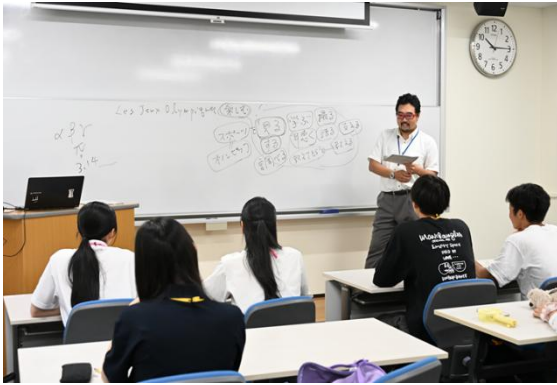
参加した生徒からは「現在は小学校での英語教育が進んでおり、より実践的な英語力を育てる方向に少しずつシフトしているというお話が興味深かったです」「この講義を受けて、私は実験などの体験を通じて学ぶことで記憶に強く結びつくことを知りました」といったコメントがあり、参加生徒にとっては貴重な体験の機会となった。



講義する加賀田教授



発表に向けて準備する生徒



生徒と意見交換する林准教授と生徒



グループワークの様子

<第2回>

プログラム名：大阪・関西万博パビリオンツアー～留学生と行く異文化体験～

開催日時：令和7年9月27日（土）12：00～17：00

開催場所：大阪・関西万博会場

内 容：本年度大阪で開催された最大のグローバルイベントを活用した、留学生とともに留学生の国についてパビリオンを通じて学ぶプログラム。本学の教員研修留学生（母国で教員をしている国費留学生、以下留学生）が自国のパビリオンで母国の文化、社会的背景、教育制度や経済発展などについて紹介し、本学生徒と他校生徒と一緒に参加、交流を深めた。

参 加 校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、大阪府立今宮高等学校、大阪府立寝屋川高等学校、大阪府立八尾高等学校、大阪国際中学校高等学校

WWL拠点校の附属高等学校平野校舎教員が引率し、大阪府立寝屋川高等学校教員2名、留学生6名（元留学生・現高校教員含）、高校生45名の総勢60名が本パビリオンツアーに参加した。留学生の出身国であるインドネシア、バングラデシュ、マレーシアの3つのパビリオンを巡った。パビリオン内では、留学生が母国の文化や生活習慣、社会課題、日本との繋がりなどについて英語で説明した後、生徒から様々な質問が出された。また、パビリオン内では、留学生の説明に、一般来場者が足を止めて聞く場面も見られた。生徒は展示物を興味深く観察しながら、各国の歴史や現状、今後の発展に向けた取組について多角的に学んだ。本プログラムで、生徒は異文化体験を通じて各国の歴史・文化・発展について学び、よりグローバルな視点を育むことで国際理解への意欲・関心を一層深めた。

参加した生徒からは「国際協力や異文化理解について深く知ることができた」「実際に留学生の話聞いて、単独でパビリオンを訪問した時よりも深い学びを得ることができ有意義な経験になった。」「留学生や他校の生徒とも交流できて楽しい機会になった。」「留学生の姿を見て国際社会で貢献している人に憧れを持った」といった声が寄せられた。



自己紹介する生徒



ミャクミャク前での記念撮影



留学生の説明を聞く生徒



休憩時間に交流する留学生と生徒

<第3回>

プログラム名：探究ののびしろ∞～大学の先生と一段上のステージへ～

開催日時：令和7年10月25日（土）9：30～11：50

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパスみらい教育共創館

講師：大阪教育大学 鈴木 真由子教授、瓜生 彩子教授、寺嶋 浩介教授、榎木 泰介准教授、中野 淳特任教授、岡部 舞特任講師

内容：生徒の発表を通じて、質疑応答を交え大学教員による今後の探究活動を充実させるにあたっての助言を行う。

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、奈良県立畝傍高等学校

探究活動に取り組む高校生を対象に現在取り組んでいる探究活動の発表を行うとともに、他校の生徒の発表を聞き、互いに学び合うこと、大学教員からの助言を受けて、今後の探究活動をより深化させることを目的に、大学教員による助言講座を昨年度に続き開催した。10ページに記載のスケジュールに従い、1グループあたり、生徒による口頭発表10分、質疑応答と大学教員による指導・助言10分の計20分を上限に実施した。

時程	内容
9 : 30～9 : 35	教員・発表者紹介
9 : 35～9 : 55	発表①
10 : 00～10 : 20	発表②
10 : 30～10 : 50	発表③
10 : 55～11 : 15	発表④
11 : 15～11 : 50	生徒・大学教員との交流タイム

講師を担当した本学教員は生徒の発表に対し、実験を行う上での条件設定や違う視点を含めた調査を行う必要性などの助言を行った。発表後には生徒と教員との交流の時間を設け、探究を進めるうえでの悩みや、探究に関する意見交換などを行った。

参加した生徒からは、「自分たちが探究してきた気づけなかったアプローチの仕方など教えてもらえて良かったです」「少し探究に行き詰まっていたので、今後の方針が見えてきて良かったです」といった声が寄せられた。参加した生徒にとっては今後の探究活動の充実に資する実りのある講座となった。



生徒に対して助言する寺嶋教授



発表後の生徒・教員間での交流の様子

<第4回>

プログラム名：外国籍市民との共生社会づくり

～夜間中学から学ぶ多文化共生と異文化理解ワークショップ～

開催日時：令和7年11月15日（土）13：30～15：00

開催場所：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

実施方法：対面

講師：奈良市立春日中学校 林 由輝子教諭

内容：近年、多国籍の生徒が集まる夜間中学校について現職の中学校教員（元 JICA 海外協力隊/ネパールの学校で活動）により、現在の夜間中学校の取組についての講義を聞き、多文化共生について考えるワークショップを実施した。

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

林由輝子先生を招き、第一部として、多様な背景を持つ多国籍の生徒と日々向き合う夜間中学校の現状や、林先生が JICA 海外協力隊としてネパール・ゴルカ郡の学校で英語教育と教育環境改善に取り組まれた経験について、講義いただいた。第二部では日本で生活する外国人が抱える困りごとについて、当事者の立場に立って考える「多文化共生」をテーマにした参加型ワークショップを行い、異文化理解について深く考え、学んだ。

参加した生徒からは「夜間学級が増えているということに驚いた。少子高齢化が進む日本でなぜ増えているのか疑問に思ったが、外国の方々も受け入れていると知り納得した」「日本で暮らす外国の方々が生活や職場、地域、教育の場面で直面する課題について考えることができた。多くの苦勞をしており、支援が十分でない部分もあると感じた」といった声が寄せられた。



講義の様子



グループワークの様子

<第5回>

プログラム名：JICA 関西訪問プログラム

開催日時：令和8年1月6日（火）14：00～16：50

開催場所：JICA 関西

実施方法：対面

講師：JICA 関西開発教育担当職員、JICA 海外協力隊経験者（ラオス）

内容：以下のプログラムを実施

- ① JICA 関西事業説明・クイズ
- ② 留学生との軽食交流会
- ③ SDGs 展示スペース施設見学・民族衣装体験
- ④ JICA 海外協力隊経験者（ラオス）による体験談と質疑応答

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、立命館宇治高等学校、大阪府立水都国際中学校高等学校、大阪府立豊中高等学校

JICA 関西開発教育担当職員による事業説明から始まり、クイズを交えた講義を行った。生徒たちは、国際協力を「支援する・される」という一方向の関係ではなく、双方向の学びとして捉える視点に触れ、理解を深めた。その後、グループに分かれ、軽食をとりながら留学生を中心に英語で他校の生徒と交流した。和やかで活発な雰囲気の中で意見交換を行った。さらに、同じグループで広報展示室を見学し、各国の文化を反映した民芸品に触れ、SDGs に関するクイズや民族衣装の試着体験等を通して、楽しみながら国際協力や SDGs 課題への学びを深めた。最後に、JICA 海外協力隊としてラオスの農村で活動された方の体験談を聞き、現在も続く地雷・不発弾の問題や、上座部仏教の文化、昆虫食をはじめとする食文化など、多角的な視点から現地の実情を知ることができた。

参加した生徒から、「将来の選択肢が増えた気がする」、「国際的な活動に従事してきた当事者の方から学べる貴重な機会だった」「海外で働くことについて詳しく知ることができた」など、積極的なコメントがあり、自身の将来について考える機会となった。



意見交換する留学生と生徒



SDGs に関する課題ゲーム



民族衣装体験の様子



講義の様子 (ラオス・ボランティア体験)

<第6回>

プログラム名：高校生国際会議（「国際」「環境」「医療」に関するディスカッション）

開催日時：令和8年1月24日（土）13:00~17:00

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパスみらい教育共創館

実施方法：対面及びオンライン

内 容：以下のプログラムを実施

①講演会

②ディスカッション（3分野（国際、環境、医療）5つのトピック）

③ディスカッションの成果発表

参 加 校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、奈良女子大学附属中等教育学校、大阪府立水都国際高等学校、千里高等学校、豊中高等学校、生野高等学校、南山高等学校女子部、神戸国際大学附属高等学校、常翔啓光学園高等学校、飛鳥未来高等学校、愛知高等学校、桐蔭学園高等学校 他

「グローバル社会を協働的に創造しよう」のテーマのもと、国内外の高校生が、グローバル社会に高校生として何ができるのかを議論や発表を行った。

「多様性をつなぎ、未来をつくる Connecting Diversity, Creating Tomorrow」と題し、日英両言語のスライドを用いて英語で本学 王 林鋒 特任准教授が講演を行った。多様性とは何か、身近な例を考えながら、多様性の重要性を考えた。講演のなかで、グループワークを実施し、参加者同士で意見交換を行い、異文化理解や国際的な課題に対して自分たちに何ができるか考える機会を設けた。講演後に実施したディスカッションでは、基調講演に関連する「国際」的なトピック、また「環境」と「医療」に関わるトピックについて、ディスカッションを通して参加者同士で探究的に考えを共有した。その後各トピックの代表生徒が全体の場で発表を行い、大学教員からのコメントを受け、参加者全体で交流や議論を深めた。

参加した生徒からは「様々な学校の生徒とディスカッションをしたため、自分にはない視点から物事を考えることができ、学びを深めることができた」「議論しがいのあるトピックで、ディスカッションが楽しいと感じた」といったコメントがあり、参加生徒にとっては貴重な体験の機会となった。



グループワークの様子



ディスカッションの様子



ディスカッション後の全体発表の様子

<第7回>

プログラム名：大阪・関西万博からつながるザンビア

～見て、触れて、感じるアフリカの文化と社会課題～

開催日時：令和8年2月21日（土）14：00～17：00

開催場所：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

講師：大阪国際大学 五月女 賢司准教授

内容：大阪・関西万博commons館ザンビアブースで展示されていた民芸品や布、ゲームなどを実際に触りザンビア文化を感じつつ、アフリカの社会課題が日本の国際協力とどのように繋がっているのかを体験し、考えを深めるワークショップを行った。

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、大阪府立水都国際高等学校

大阪国際大学准教授の五月女賢司先生を講師に招き、ワークショップを3部構成で行った。第1部ではザンビアの地理的な場所、文化・社会背景・教育制度などの基本情報を学び、実際にザンビアで食べられている昆虫食にふれたり、現地で収穫されたコーヒーの試飲を行い、ザンビアの文化を五感で体験した。

第2部ではザンビアの民芸品について、大阪・関西万博で実際に展示されていた物品を目で見るだけでなく、実際に手で触れてみて素材の質感や重さ、どのような用途で使われていたものなのかを調べた。

第3部では、ザンビアで発生している社会問題についてディスカッションを行った。昨今、ザンビアの平均寿命が30歳から60歳に飛躍的に向上した理由を説明し、アメリカ政府(USAID)の解体により、ビルゲイツ財団からの資金援助がなくなったらどうなるのか、国際協力の視点を踏まえ、自分たちにできることは何かを考えた。

参加した生徒からは、「ザンビアの暮らしや歴史について学ぶことができた」「国際情勢が不安定な中で、国際協力について具体的なテーマで考えることができた」「博物学について

興味がわいた」といった感想が寄せられ、普段は遠く感じる国について、実際に触れて感じることを通じて、国際協力的な視点での学びを深めることができた。



講義の様子



学芸員職業体験の様子

2. 課題研究発表会

プログラム名：高校生研究発表会

開催日時：令和8年3月14日（土）13：00～15：45

開催場所：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

内 容：ポスター発表

参加校：大阪教育大学附属高等学校平野校舎、池田校舎、天王寺校舎、大阪府立茨木高等学校、大阪府立水都国際高等学校、大阪府立千里高等学校、大阪府立夕陽丘高等学校、近畿大学附属高等学校、奈良女子大学附属中等教育学校、兵庫県立須磨友が丘高等学校、桃山学院高等学校

高校生国際会議の第2部として、本学附属高等学校平野校舎で「高校生研究発表会」を開催した。この発表会はWWL関係校に案内し、本学WWL連携校や人材育成校など11校から合計79件のポスター発表を行った。今年度は本学の大学教員や大学院生、学部生の計19人がポスター発表の審査を担当した。

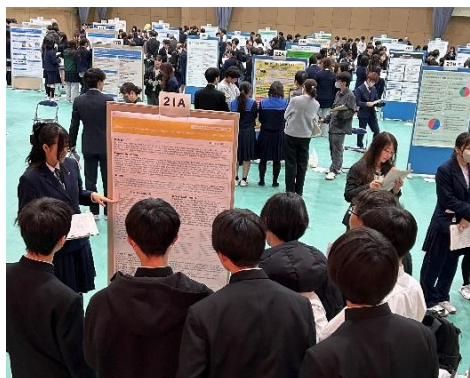
ポスター発表は8ブロックに分け、1ブロックあたりポスター10件を2～3人の審査員が担当した。発表者は用意したポスターについて当事者意識を持った考察内容を発表した。

審査員は評価ルーブリックを用いて発表内容を確認し、コメントや助言を行い、ポスターの内容理解を深めるサポートを行った。

発表後、審査員から各ブロックの上位発表者を表彰し、講評が行われた。さらに、ブロックごとの表彰に加え、本学附属学校統括機構長賞が鈴木副学長から授与された。機構長賞を受賞したポスターは、専門的アドバイスを受けながら緻密な分析を行い、研究活動を進めた点が評価された。

参加者からは「他のグループの発表を聞いて、自分の研究をより良いものにしたいという

意欲が湧いた」「審査員や見学者から質問を受け、研究を深めるヒントを得た」「仲間と切磋琢磨し、協力しながら研究活動することに魅力を感じた」といった声が寄せられ、生徒にとって、自身の探究活動について見直しや意欲向上に繋がる機会となった。



課題研究発表会の様子



表彰の様子

3. その他

イノベティブなグローバル人材育成を行うためのミニフォーラム実施に向けて、アントレプレナーシップ教育に焦点をあてたプログラムを行うための交渉をオーストラリアの高校と連携交渉を開始した。

(3) 教員向けフォーラム

教員向けフォーラムとして、計4回実施した。それぞれの内容を以下に報告する。

<オンデマンドコンテンツの作成>

・探究学習入門（意義と進め方、方法と評価）

昨年度探究学習における評価のあり方について、入門的な内容として本学 森本 和寿 特任講師より講義を行った。その講義を踏まえたオンデマンドコンテンツを2件作成した。教員向けフォーラムとして、WWL関係校及び本学ホームページで周知した。

このオンデマンドコンテンツは複数のコンテンツで構成されており、教員の隙間時間に視聴できるよう考慮し作成した。

<探究学習研修会の実施>

開催日時：令和7年11月1日（土）9：00～

開催場所：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

参加校：奈良女子大学附属中等教育学校、大阪府立水都国際高校、千里高等学校、高津高等学校、豊島高等学校、芦間高等学校、かわち野高等学校、吹田東高等学校、堺西高等学校、関西学院千里国際中等部高等部

そ の 他：伊丹市教育委員会 他

本学WWL拠点校である附属高等学校平野校舎で探究学習研修会を開催した。関西ブロック関係校に周知し、各教科・科目で生徒の「見方・考え方」が働く授業作りのために、概念型学習を取り入れて研究を進めており、今年度は国語と外国語、保健体育の研究授業を公開し、その後研究協議と大学教員による分科会を行い、意見交換等を行った。本学WWL連携校教員だけでなく、関西地域の教職大学院生も参加した。

<セミナーの実施>

・メディアと連携した教育って、なに？～探究、情報リテラシー～

開催日時：令和8年3月14日（土）14：00から17：00

開催場所：大阪教育大学天王寺キャンパスみらい教育共創館

講 師：読売新聞大阪本社 水野 広宣、大阪公立大学 横井 修司教授

大阪教育大学 藤本 佳子特任講師・岡部 舞特任講師

参 加 校：大阪府立狭山高等学校、奈良県立高田高等学校

そ の 他：学校法人佐藤学園、読売新聞大阪本社、小中学校教員、本学教職大学院生 他

本学と包括連携協定を締結した読売新聞大阪本社と連携した授業実践（新聞を教材とした研究プロジェクト、授業や教育活動におけるメディア人材との交流）事例をセミナーにて発表した。加えて、WWL拠点校の附属高等学校平野校舎教員が教科における概念型探究学習、教育現場での実践事例発表などを行った。

（４）成果報告会（国際会議）等

関西ブロックの各ALネットワークで行われている探究活動の成果発表会について、拠点校に対して、成果発表会や高校生国際会議等に人材育成校の生徒が参加できるように各ALネットワークへ可能な範囲で各ALネットワークに属さない高校の生徒の受入について要請した。本学では例年実施している高校生国際会議を昨年度より人材育成校の参加を可能とし、今年度から参加校に制限をなくし募集を行った。また、対面だけでなく、オンラインでの参加も可能とした。人材育成校だけでなく、東海地方の高校からの参加もあった。

また、本学WWL拠点校である附属高等学校平野校舎にて課題研究発表会を開催し、本学WWL連携校だけでなく、人材育成校等が発表を通じて交流を行った。ALネットワーク外の生徒にとっては新たな学びを得られる機会となっただけでなく、高校生・学校間の交流の促進に繋がった。次年度以降も、高校生国際会議と課題研究発表会を継続して行い、WWL関係校以外の生徒も参加できる体制を維持する。

(5) 広報及び人材育成校の拡充

WWL事業と関わりがなかった高校にイノベティブなグローバル人材育成の必要性和可能性を普及させるにあたり、ミニフォーラムや課題研究発表会等に参加した高校関係者に対して、本学教員が事業への呼びかけを昨年度に続き行った。

Webサイトへのトピックの掲載に加えて、本学webページにもミニフォーラムの参加募集や、取組内容を発信した。

Ⅲ. 会議報告

大阪教育大学地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク関西ブロック推進委員会

大阪教育大学地域アドバンスト・ラーニング・ネットワーク 関西ブロック推進委員会委員名簿

	根拠規程	役職等	氏名
委員長	第4項第1号	副学長	藤井 睦子
副委員長	第4項第2号	学長補佐	鈴木 真由子
	第4項第3号	委員長が指名する職員	榎木 泰介
			大内田 裕
			寺嶋 浩介
			仲矢 史雄
			瓜生 彩子
			岡部 舞

<第1回>

- 日 時 令和7年6月20日(金) 10時～11時
形 態 Teamsによるオンライン会議
議 題 (1) ミニフォーラム・教員向けフォーラム実施計画について
(2) AL ネットワーク国際会議等の行事予定の取りまとめについて
(3) その他
報 告 (1) その他

<第2回>

- 日 時 令和8年3月16日(月) 9時～3月17日(火) 12時
形 態 Teamsによる書面会議
議 題 (1) 次年度以降のWWL事業について
(2) その他
報 告 (1) 令和7年度ミニフォーラム・教員向けフォーラム実施内容について
(2) その他